

## 第26回下水道事業に関する審議会 議事録

1. と き : 令和3年4月16日(金) 午後1時28分～午後3時30分

2. と ころ : 雲南市下熊谷交流センター 会議室

3. 出席者

(審議会委員)

金山壽忠 会長、田部昌典 副会長、細川康男 委員、内田和信 委員、坂田和子委員、  
勝部新治 委員、田中和子 委員、若槻 徹 委員、片寄健治 委員、藤原文雄 委員、  
板持保吉 委員

・・・(委員11名)

欠席者 木村守登 委員 (委員1名)

(事務局)

吉山 治 副市長、細木弘志 水道局長、土井隆宣 次長兼下水道課長、渡部克彦 次長兼営業課  
長、村重悦子 総務課長、加藤美穂 主幹

・・・(事務局6名)

4. 審議日程

(1) 開会

(2) 挨拶

(3) 事務局職員の紹介

(4) 諮問 下水道使用料の改定について

(5) 審議

○下水道使用料の改定について

・審議会スケジュール

第1回 4月 諮問・説明

第2回 5月 質疑

第3回 6月 質疑・答申(案)の作成

第4回 7月 答申(案) 最終確認

・改定に向けたスケジュール

下水道使用料関係条例の改正 12月定例議会

改定後の使用料の適用 令和4年4月使用分から

・下水道使用料の改定について

○令和3年度事業及び予算について

・主要事業について

・生活排水処理事業特別会計予算概要について

・下水道事業会計予算概要について

○下水道事業及び水道事業に関する審議会の在り方について

(6) その他

- 次回審議会の開催について
- その他
- (7) 閉会

[次第]

1. 開会
2. 挨拶  
    金山壽忠 会長  
    吉山 治 副市長
3. 事務局職員の紹介(4月1日の異動者のみ自己紹介)
4. 諮問 下水道使用料の改定について  
    吉山副市長から金山会長へ諮問書(案)提出

雲南市下水道事業に関する審議会条例第6条第2項に基づき、委員の半数以上が出席しており会議が成立していることを報告

----- 以後、審議会条例第6条第3項に基づき、会長が議長となる -----

5. 審議

(1) 下水道使用料の改定について

- ①審議会スケジュール
- ②改定に向けたスケジュール
- ③下水道使用料の改定について

事務局より説明した後、委員からの質疑を行った。

**【質疑】**

(委員) 今回の改定についての諮問の文章の裏側に、本市の人口は減少傾向にありと書いてあるが、ここに書いてあるのは平成17年国勢調査における人口44,403人であり、最近平成27年頃に実施した新しい国勢調査の数字はどうなっているのか。もっと新しい数字があるはずである。10年後の令和7年に33,610人と予想されていると書かれているが、雲南市においては第二次総合計画の中において、2024年、令和6年に目標人口36,500人と挙げているわけだ。そうすると雲南市の全体の計画はある程度、目標人口に向かって計画を進めているはずだが、この場合に令和7年の33,610人と令和6年の目標人口36,500人では、3,000人くらい差がある。人口において社会インフラの設計をしているわけだが下水道事業、あるいは水道事業の計画というのは、雲南市の総合計画との整合性はどうなっているのか。数字を出すにあたり少なくとも雲南市は総合計画で数字を立てて色々やっているのであれば数字は全ての部署において頭に入れ、今後どのような方向でいくのか、現状は実際いくらになっているのか、例えば3年後には難しいなかそういう修正することもでてくるわけだ。下水道や水道についてもいつも頭に入れておいてもらわないと数字ばかり見ても、資料を見ていて36,500人にならなければならないのに33,000人で考えるのかと思ってしまう。まず、一番基本的なこととして、色んな部署含めて人口に絡むこ

とを計画する場合であれば、市としてどういう体制でやるのかを全部署に通知していただきたい。そうしなければ全部くるってくると思う。今日言われたのは、下水道使用料改定に向けた審議事項の中で、今後の需要見込み件数及び排水量は適正かということが検討する一つになっているが、今後の需要見込みも 36,500 人の需要見込みなのか、あるいはどんどん減っていき 33,610 人の需要見込みなのか。全然違うので使用料も違ってくると思う。私はこれを見たときに 33,610 人で検討すればいいのかと。増えるときについては水不足になるのか、あるいは供給不足になるのかと思った。そのところ市としてどのように考えているのかをここで聞きたい。

(事務局) 諮問のところに書いてある人口というのは、傾向というところで書いている。数字については合併当時のもの、それから 10 年後のスパンで書いているのでご理解いただきたい。先ほどの計画数値だがこれに関しては市の全体の計画と、推計人口というのが二つあり、推計人口通りには減少させたくないという思いで計画を立てているので、少し高めの目標をもってこれに取り組むという姿勢である。今回の下水の使用量をどうみるかについては、先ほど説明したように過去 5 年間の動向と今後のところの推計をどうしていくかというところで、算定期間という話をしたが、その中では直近は 5 年との推計を出しているということで市の計画をおさえながら人口の推計もおさえながら直近のところをおさえ、どうしていくか。それと、下水の整備、接続率の向上、この辺を加味してどうみていくかという出し方をしているので、接続率が 82%、整備率が 90%で、全体の人口そのものと下水道使用量とは直結はしない。少し区別して数字を出しているので、市の総合計画の数字をそのまま持ってくるのは今回難しいと思う。もう少し詳しく説明すると、世帯数については少し上昇、ただ水量的には少し落ちてくるという見方、5 年間のところでは見せていただいている。

(委員) 全ての施策において目標を持っているわけだから、この目標と現在どれほど離れているかということ常々頭に置いておいてもらいたい。修正したならば、どういう観点で修正したかということ常々きちっと説明できるようにしてもらいたい。現に私は 36,500 人は無理だなと、令和 7 年、2025 年、次の年にはそれよりもっと減っていると思う。既に目標値にはもう 3,000 人少ないと今この資料をもって再確認したところだ。だから最近の国勢調査は何人になっているかを知りたかった。

(事務局) 最近の雲南市の速報値はまだでていなかった。先ほど言われた議論を昨年後期の市の計画作っている中でも人口の目標の抑え方をどうするのか議会でもかなり意見が出た。しかし、現実路線とただその推計を受け止めるか、少し上げていかなければならない。そのところの数字の抑え方は非常に難しいところ。現状として推計の通りではなくやはりそこにもっていかないための施策ということで総合計画は作っている。そうするとどうしても差が出てきますので、その数字をそのまま持ってくるというのも難しいところがあって、直近のところを見せていただいて計画期間も短いスパンで料金を常に算定していくというスタンスである。ご理解いただきたい。

(委員) 基本的に人口の推計と現実とのギャップをみなさんに承知しておいてもらわないとこ

の質疑は始まらない。人口で数字が変わってくるから。みなさんどうでしょうか。

(事務局) あくまでも推計というのはそういう傾向にあるということをお示ししたもので、それをもって今回の料金の算定の基礎の水量にはしていないので、ですので人口減少ほど水量は落ちない。それは先ほど言いましたようにまだ未整備のところの接続をあげていきたい。ただやはり人口は少しずつ落ちるので水量としては横ばいもしくは少し落ちてくるだろうなという見方で人口減少にそっているよりは少し高い。

(事務局) 人口についてのご意見ですが、議会の中でも捉え方の基本的な考え方というのが話題になった。人口減少対策を掲げながら、なかなか施策が追いついていかないということで非常に苦しい説明をしている。人口減少に対してしっかりやっていかなければならない。人口についての捉え方は推計ですので経営の観点からの見方、実際の検証等させていただきたいと思う。

## (2) 令和3年度事業及び予算について

### ①主要事業について

### ②生活排水処理事業特別会計予算概要について

### ③下水道事業会計予算概要について

事務局より説明した後、委員からの質疑を行った。

質疑なし

## (3) 下水道事業及び水道事業に関する審議会の在り方について

事務局より説明した後、委員からの質疑を行った。

質疑なし

## 6. その他

### (1) 次回審議会の開催について

令和3年5月11日(火)又は12日(水) →5月12日(水)に決定

時間 午後1時30分から

場所 下熊谷交流センター 会議室

### (2) その他

その他全体について質疑を受けた。

#### 【質疑】

(委員) 結局今の下水道審議会は7月末で終了ということによろしいか。

(事務局) 7月末で終了と考えている。

(委員) 質問票を書いてくるのか。

(事務局) この質問票は、今日この場で聞きにくかったことなど何でも結構なので何かありましたら書いて送っていただきたい。

(事務局) 先ほど昨年の国勢調査の速報値の話もあったが、島根県全体の速報値は 671,602 人で 5 年前に比べて 3.3%の減ということだった。

(委員) 自主組織から 6 人ということだが、自主組織の人数が減ることか。8 月から変われば人数が減ることか。

(事務局) 新しい審議会については、常設ではなくて料金を改定したいと思ったときに委員さんを選考していただいて、設置をしたいと考えている。

(委員) 1 年早く終わってしまうということか。

(事務局) そういうことだ。人数は 12 人というなか 10 人で、多いところは 2 人だったが、これからは 1 人ずつという考え方。自主組織から 6 人は旧町村から 1 人ずつと考えている。

----- 審議終了 -----

## 7. 閉会

水道局長あいさつ